

公益財団法人痛風財団
平成30年度事業報告書

I. 概況

我が国の痛風・高尿酸血症患者数は約100万人、高尿酸血症患者は約1,000万人と推定されているが、生活環境の変化等も加わり更に増加し続けていると言われている。

当財団は痛風・高尿酸血症の原因究明と治療レベルの向上の為、長年に亘り研究者への助成支援を続け、また医師に対する研修や一般の人々に対する痛風・高尿酸血症に関する啓発事業を通じて患者の減少を目指した活動を行っており、平成30年度もこの目的に向けて事業活動を行った。

また、近年痛風の要因でもある尿酸自体の研究に関する論文も多く発表され、尿酸が痛風や腎臓・心血管のみならずその他多くの疾患に関係していることが明らかになりつつあり、当財団の支援事業も広く尿酸分野の研究者を対象とするなど新たな展開を目指している。

事業を支える財政面では収入は製薬業界からの寄付減少が響き前年度比200万円減の1,800万円弱に留まり、一方支出は2,100万円で、差し引き今年度経常収支は約300万円の赤字となった。更に今年度は満期を迎えた保有有価証券の運用損300万円と保有ファンドの期末評価損1,200万円を計上した結果、総合収支は1,800万円の損失となった。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

平成30年度の研究助成は下記部門を対象として総額900万円の助成を行った。

- ① 痛風・高尿酸血症に関する臨床的色彩又は基礎的色彩の濃い特色ある研究を対象とした「痛風財団賞」
- ② 痛風・高尿酸血症に関する一般的研究を対象とした「研究助成」

助成申請は「痛風財団賞」「研究助成」の2部門で募集を行い、全国医学系大学81校や関係研究機関などに対して応募要項送付し、また財団ホームページや医学関係新聞雑誌でも公表して平成30年9月1日から10月31日まで応募を受け付けた。

この結果平成30年度の応募総数は37件であった。

選考は理事長以下理事長より専門分野を考慮して委嘱された下記7名の選考委員が応募書類を事前に審査し、その結果を参考として平成30年12月10日開催の選考委員会で審議された。

1. 鎌谷直之 痛風財団理事長・スタージェン医療人工知能研究所長
2. 市田 公美 東京薬科大学薬学部 病態生理学教室 教授
3. 岡本 研 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化

学専攻 特任研究員

4. 馬場園 哲也 東京女子医科大学糖尿病センター センター長
5. 細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授
6. 嶺尾 郁夫 市立豊中病院 糖尿病センター センター長
7. 森崎 隆幸 東京大学医科学研究所 特任教授

審議の結果、平成30年度研究助成対象者は以下の通り決定した。

- ① 痛風財団賞 1名 助成金額100万円
桑原 政成 (虎の門病院 集中治療科兼 循環器内科 医長)
研究テーマ：高尿酸血症が心腎血管代謝疾患に及ぼす影響の解明
- ② 研究助成 17名 助成総額800万円
 1. 今田 恒夫 (山形大学大学院公衆衛生学・衛生学講座 教授)
研究テーマ：日本人地域住民コホートにおける尿酸関連遺伝子多型・環境相互作用と心血管疾患、認知症の関連 (継続)
 2. 山内 高弘 (福井大学医学部病態制御医学講座内科学(1) 教授)
研究テーマ：抗アポトーシスを標的とする抗腫瘍性核酸アナログ耐性白血病の克服
 3. 高田 龍平 (東京大学医学部附属病院薬剤部 講師/第一副部長)
研究テーマ：尿酸降下薬による尿酸トランスポーター阻害を介した薬物相互作用
 4. 内田 俊也 (帝京大学医学部内科客員教授)
研究テーマ：オキソニン酸負荷高尿酸血症モデルラットにおける腸管 ABCG2 発現と尿酸代謝
 5. 市田 公美 (東京薬科大学薬学部病態生理学教室教授)
研究テーマ：ABCG2 の腎機能に対する保護的作用に関する研究
 6. 関根 舞 (東京大学大学院博士課程)
研究テーマ：プリンサルベージ活性に対するプリン類似体作用とエネルギー効率に関する研究
 7. 久留 一郎 (鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻 遺伝子再生医療学講座 (再生医療学部門) 教授)
研究テーマ：尿酸により誘導される電位依存性カリウムチャネルを介したマクロファージの活性化による炎症惹起機構の解明
 8. 金子 希代子 (帝京大学薬学部臨床分析学研究室 教授)
研究テーマ：痛風結節に含まれる IgG の解析と痛風発症との関連
 9. 安西 尚彦 (千葉大学大学院医学研究院薬理学 教授)

研究テーマ：Multi-Functional Organic Solute Transporter (MFOST) としての MCT9 (*SLC16A9*) の尿酸輸送機能解明 (継続)

- 1 0. 高稲 正勝 (群馬大学未来先端研究機構 助教)
研究テーマ：プリン生合成を制御する細胞内構造体「プリノソーム」の形成メカニズムの解明
- 1 1. 西澤 均 (大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学講師)
研究テーマ：肥満症におけるプリン代謝と臓器連関；組織および血中 XOR 活性に着目して
- 1 2. 程 継東 (兵庫医科大学糖尿病内分泌代謝科 特別招聘教授)
研究テーマ：膵臓β細胞のオートファジーにおける高尿酸とインスリン抵抗性の関連について検討
- 1 3. 藤原 めぐみ (日本医科大学医学部生化学・分子生物学 (代謝・栄養学) 教室 助教)
研究テーマ：障害された組織の修復にサルベージ由来 ATP が果たす役割を探る
- 1 4. 藏城 雅文 (大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学講師)
研究テーマ：キサンチン酸化還元酵素活性の生活習慣病、動脈硬化における意義の解明 (継続)
- 1 5. 阿部 弘太郎 (九州大学病院循環器内科助教)
研究テーマ：肺高血圧症におけるキサンチンオキシダーゼの病態生理学的役割の解明
- 1 6. 山内 明 (川崎医科大学生化学教授)
研究テーマ：尿酸の炎症細胞機能に対する直接作用の評価：抗酸化作用は有利か。
- 1 7. 沢村 達也 (信州大学医学部生理学教室教授)
研究テーマ：痛風の炎症発現・増悪メカニズムの解明 (継続研究)

2. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

① 第29回医師対象痛風研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象に、今年度で29回目を迎えた痛風研修会を平成30年9月9日(日)に東京慈恵会医科大学講堂で開催した。

痛風協力医療機関などへの案内状やインターネット等を通じて聴講者を募り、一般開業医をはじめ医療関係者約200名の参加を得て高尿酸血症の診断及び治療の方法や最新の研究成果についての講義と活発な質疑応答が行われた。研修プログラムと講師は下記の通り。

★第1部 講演

1. 痛風・高尿酸血症の動向
箱田 雅之 (安田女子大学家政学部管理栄養学科教授)
2. 尿酸と循環器疾患
土橋 卓也 (製鉄記念八幡病院院長)

★ランチョンセミナー

- 虚血時のプリン代謝とキサンチン酸化還元酵素
岡本 研 (東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻 特任研究員)

★第2部 講演

1. 痛風関節炎と痛風結節
谷口 敦夫 (東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター教授)
2. 痛風腎
大野 岩男 (東京慈恵会医科大学総合診療内科教授)
3. 尿酸排出輸送体 ABCG2 による尿酸動態制御機構の解明
高田 龍平 (東京大学医学部附属病院薬剤部講師/第一副部長)

★第3部 質疑応答

- 回答者
藤森 新 (帝京大学医学部附属新宿クリニック院長)
大山 博司 (両国東口クリニック理事長)
藏城 雅文 (大阪市立大学大学院医学研究科講師)

尚、平成31年度第30回痛風研修会は9月8日(日)に東京慈恵会医科大学で開催の予定である。

② 痛風協力医療機関推薦

痛風研修会参加の一般医師などに呼びかけ、新たに2機関を推薦した。

この結果、平成31年3月末現在の痛風協力医療機関は全国で合計140機関となった。

新規推薦医療機関は下記の通り。

【新規推薦】

1. 浦安高柳病院 (新井 もとえ 先生)
浦安市猫実5-11-14
TEL 047-380-2000
2. 横浜内科おなかクリニック (山田 晃弘 先生)

横浜市青葉区美しが丘 2-14-4
KMビル 2階
TEL 045-901-2232

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

ホームページへのアクセス数は新たにスマートフォン向けウェブサイトを開設した結果年間 200 万件を超えるに至り、患者や家族のみならず広く一般関係者に対しても有効な情報伝達手段として定着したと思われる。この為、その内容も更に充実すべく適宜更新しながら痛風・高尿酸血症についての知識や診療機関の情報を掲載して一般各位の便宜に供して居る。

② 一般からの質問への対応

一般患者や家族などからのメールや電話での質問に対しては、診療機関の紹介依頼には痛風協力医療機関を紹介し、その他発作時の対処方法や食事に関することなどは都度専門医師等に問い合わせその回答内容を伝えている。

③ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「尿酸値をコントロールする」を発行し、全国の協力医療機関等を通じて一般に配布すると共に、平成 30 年 8 月と平成 31 年 1 月に会報を発行した。

8 月発行の会報第 87 号は平成 29 年度研究助成痛風財団賞受賞の東京大学医学部附属病院薬剤部講師／第一副部長高田龍平先生の「第 1 回痛風財団賞を受賞して～尿酸排出輸送体 ABCG2 による尿酸動態制御機構の解明～」と題する研究の背景やその後の進展状況などに関する一文を掲載し、1 月の会報第 88 号には財団役員各位からの寄稿文を掲載した。

Ⅲ、会員の現況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

個人賛助会員	109 人
団体賛助会員	12 団体
特別賛助会員	10 団体

以上